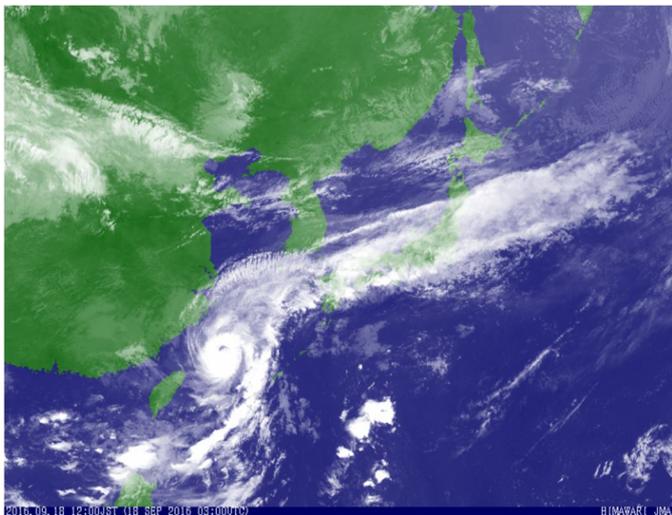
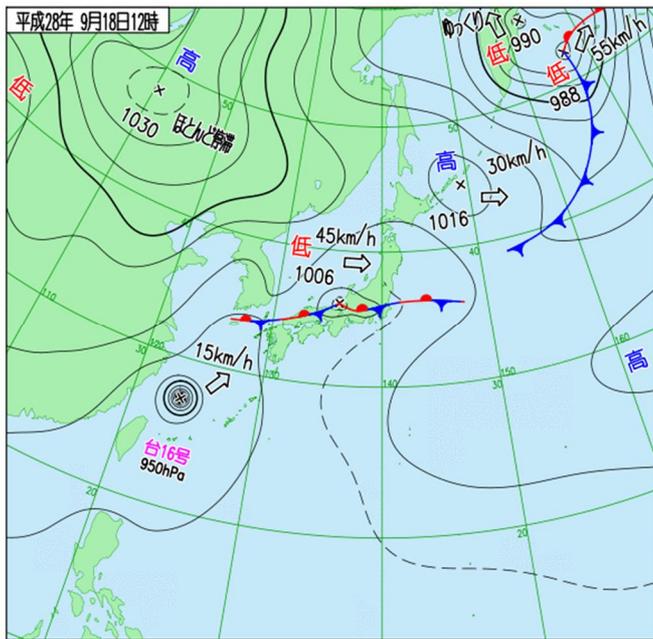


「台風16号を教材化する(1)」

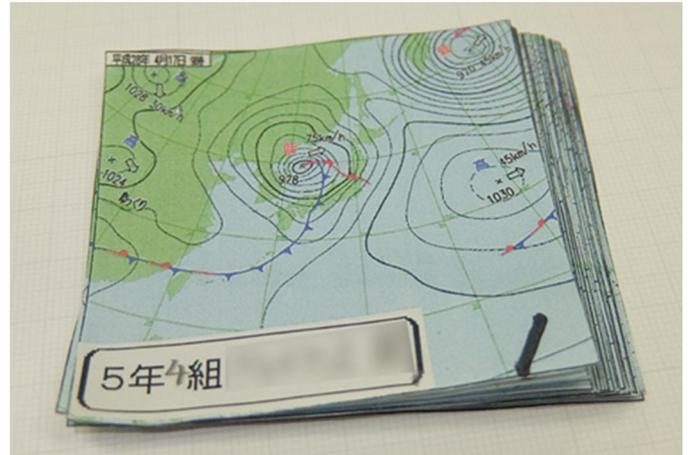
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

5年生2学期の教科書では「台風」を大きく扱っている。日本の理科の教科書ならではの題材である。北東北や北海道の小学校はあまり関係ないと思っていたが、昨今の台風の進路を見ると、もはや日本の国土で台風と無関係の地域はなくなったと言って良い。日本で生活する以上、台風に関する正しい知識と対処法を身につけておくことが必須になった。

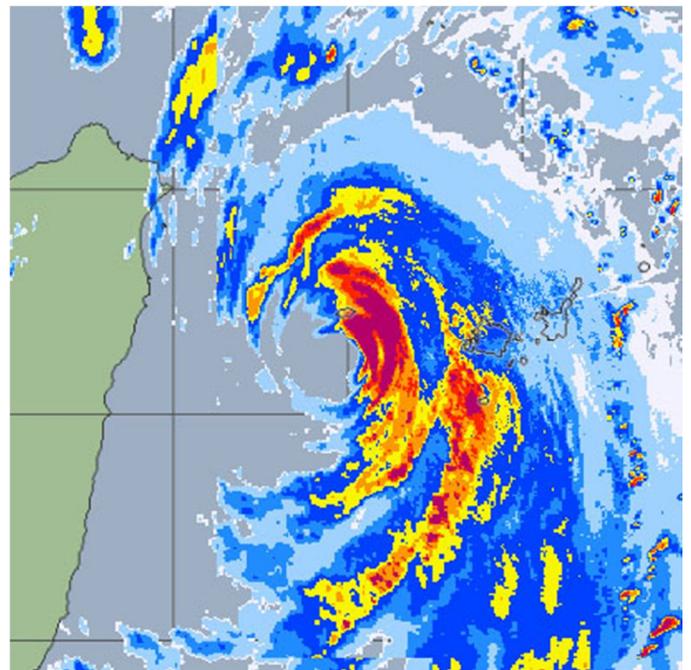
列島に台風が接近した場合、最も重要なことは、「早期に、正しい情報を集める」ことである。気象状況は、自分で観測することはできない。私は先週、5年生の子どもたちに「台風16号の情報を、可能な範囲で集めておきましょう」と指示をしておいた。



私自身も、いつでも授業で使えるように、常に台風情報を集める努力をしている。左下図は18日(日)正午の天気図と、同じ日時の衛星画像である。これらの連続画像を小さく印刷して「パラパラ漫画」にすると、台風や前線の雲の動きが非常によくわかる。



これが、天気図を集めて作った「パラパラ天気図」である。(2015年4月の実践) 右端に少し段差をつけて綴じると、スムーズに動く画像になる。



台風の通過に伴う、雨量や風速の変化も重要である。これは気象庁HPの「高解像度ナウキャスト」画像の一部である。台湾と宮古島が見える。台風を中心付近や左側は降雨量が少ないことがわかる。こうした画像も、まず教師自身が保存しておくことが大切だろう。